

第 2 回 山梨県自転車活用推進計画策定委員会

平成30年12月20日(木)

第1回委員会での意見の対応資料



委員意見

- ・ 自転車事故の発生場所の調査

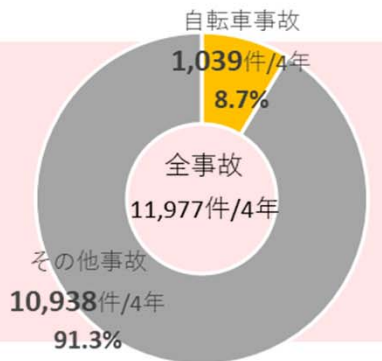
- 山梨県内の国道・県道における自転車事故は平成24年から平成27年の4年間で1,039件と、年間約260件起きている。
- 全事故に占める自転車事故割合を全国と比較すると、山梨は10%以下での推移に対し、全国は約20%と2倍以上の開きがある。
- 甲府市内および峡中での事故の発生が多い。

①自転車事故件数（山梨県）

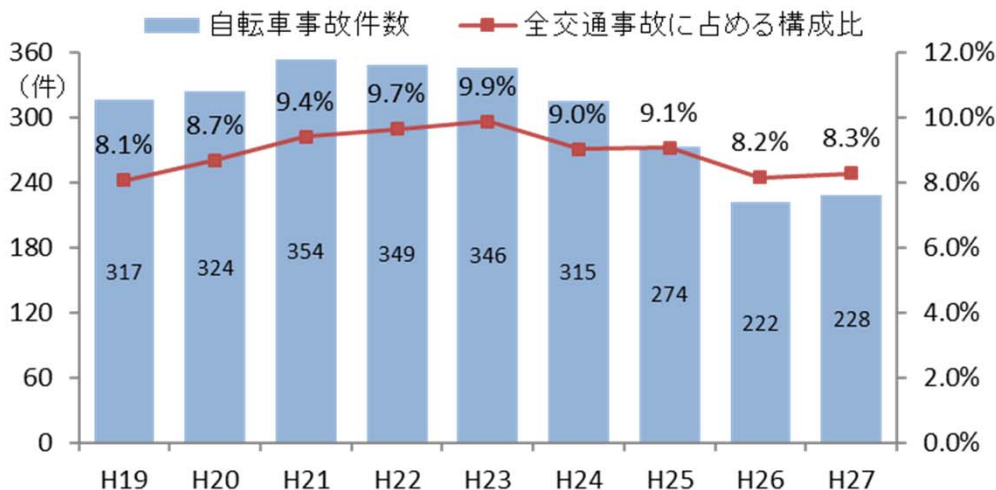
▼山梨県全事故に占める自転車事故の割合（H24～H27）

H24～H27の4年間で自転車に関与する事故件数（第1当事者もしくは第2当事者が自転車の事故）

1,039 件/4年間



▼山梨県における全事故に占める自転車事故の推移（H19～H27）

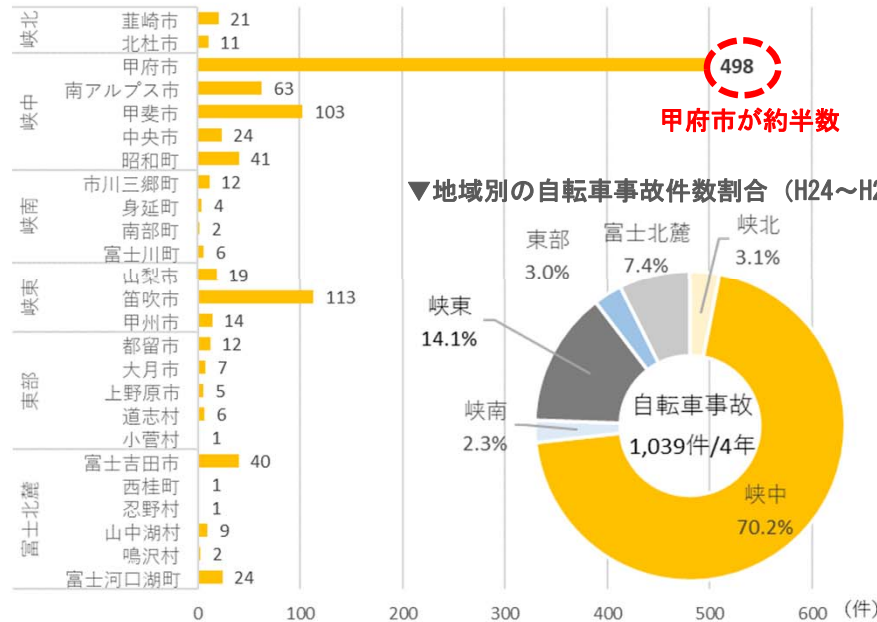


データ：公益財団法人 交通事故分析センター 交通事故統計（H19～H27）

※山梨県のデータは国道及び県道のみ対象（市町村道等はデータベースに該当なし）
※事故危険区間検討は4年間分のデータを用いており、本集計はそれに準じた

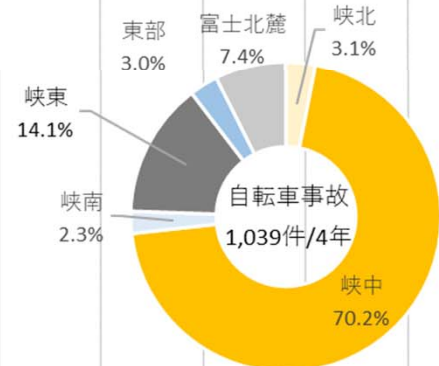
②市町村別自転車事故件数（山梨県）

▼市町村別の自転車事故件数（H24～H27）



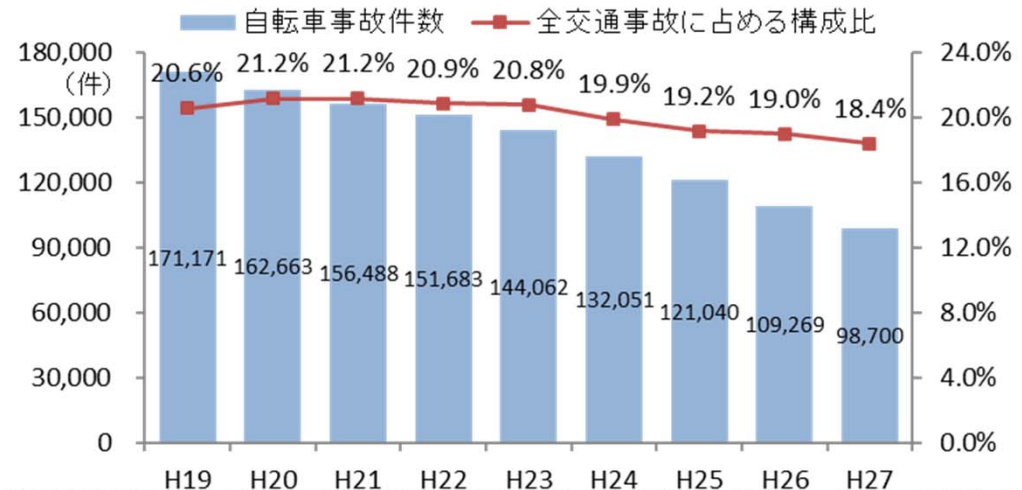
甲府市が約半数

▼地域別の自転車事故件数割合（H24～H27）



データ：公益財団法人 交通事故分析センター 交通事故統計（H24～H27）

▼全国における全事故に占める自転車事故の推移（H19～H27）



データ：警察庁交通局（平成30年2月）「平成29年における交通事故の特徴について」より作成



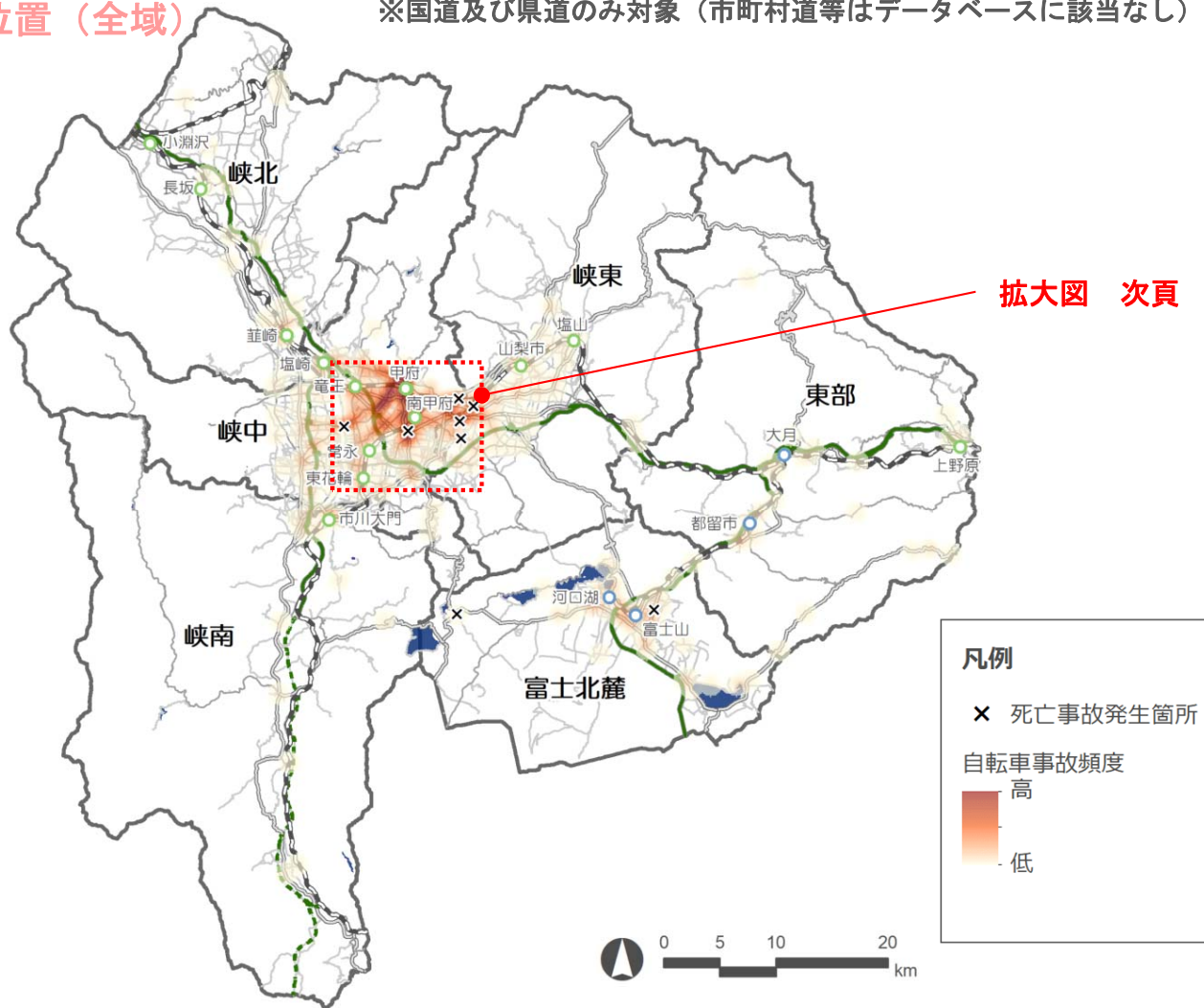
委員意見

- ・ 自転車事故の発生場所の調査

- 発生位置は甲府市を中心とした市街地エリアで多く発生している。
→ 自動車及び自転車利用の多い市街地が事故発生頻度が高い

③ 自転車事故発生位置 (全域)

※ 国道及び県道のみ対象 (市町村道等はデータベースに該当なし)



▲ 自転車事故発生頻度のヒートマップ (H24~H27)

データ：公益財団法人 交通事故分析センター
交通事故統計 (H24~H27)



委員意見

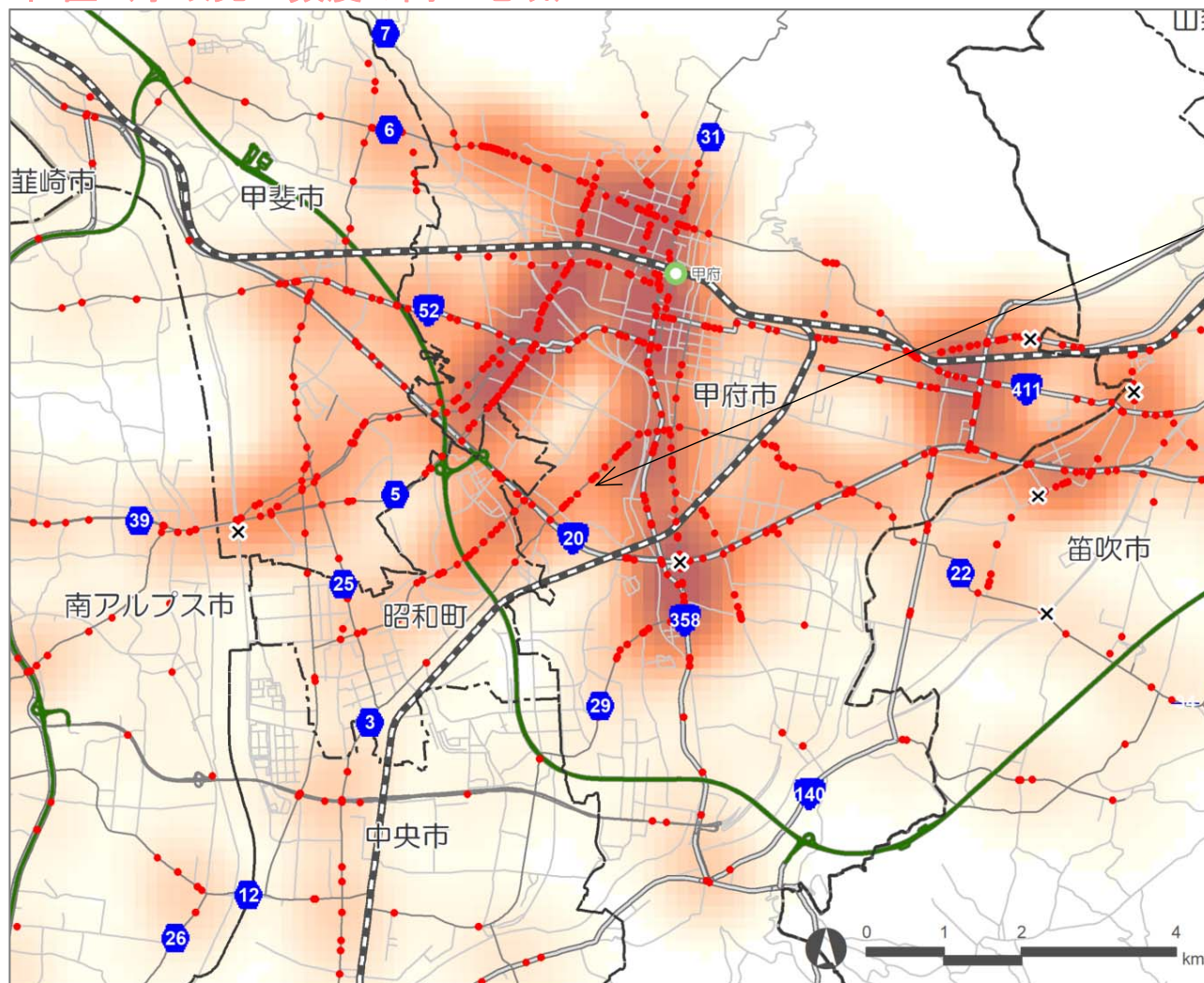
・ 自転車事故の発生場所の調査

■ 特に国道20号、県道5号甲府アルプス線、県道6号甲府韮崎線、県道3号甲府市川三郷線、国道52号、国道411号が自転車事故発生の多い路線である。

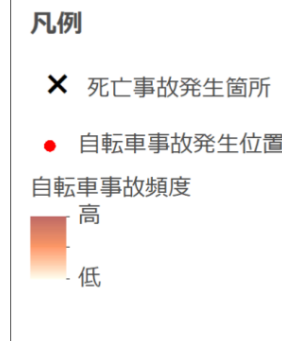
→ 自動車及び自転車利用の多い市街地が事故発生頻度が高い

③ 自転車事故発生位置（事故発生頻度の高い地域）

※ 国道及び県道のみ対象（市町村道等はデータベースに該当なし）



国母通り（甲府市国母地内）
（自転車専用通行帯あり）



▲ 自転車事故発生頻度のヒートマップ（H24～H27） 事故発生頻度の高い地域

データ：公益財団法人 交通事故分析センター
交通事故統計（H24～H27）



委員意見

- ・ 自転車対歩行者等の分析

- 自転車対自動車の事故が約9割を占める。
- 自転車が加害者の事故は全体の約14%発生しており、中でも対自動車事故が多い。
- 自転車が被害者の事故は9割超が対自動車事故となっており、自動車側の安全不確認が多い。
→自動車及び自転車利用者双方に対し適切な安全教育が必要と考えられる

④道路利用者別事故発生割合 (山梨県)

※国道及び県道のみ対象 (市町村道等はデータベースに該当なし)

▼自転車事故の当事者類型 (H24~H27)

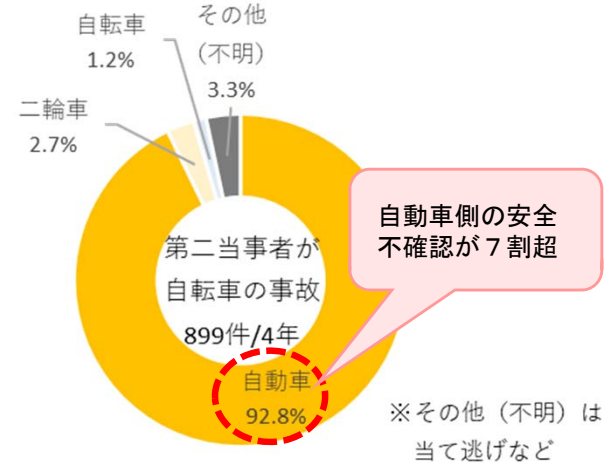
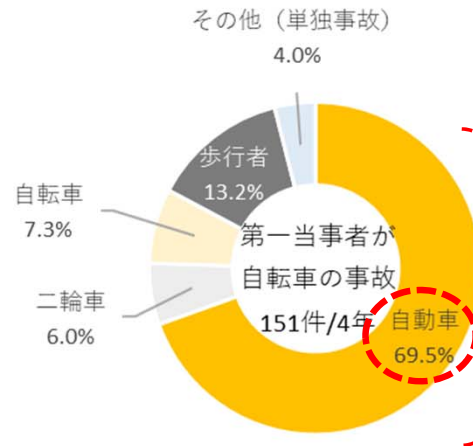
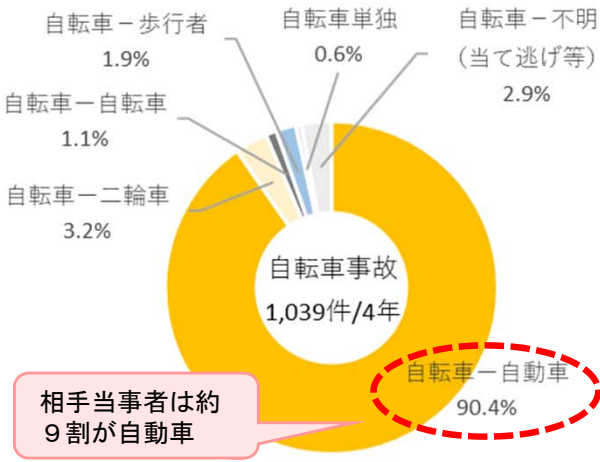
▼第一当事者が自転車の事故 (自転車が加害者) の第二当事者類型 (H24~H27)

▼第二当事者が自転車の事故 (自転車が被害者) の第一当事者類型 (H24~H27)

▼法令違反の種類 (H24~H27)

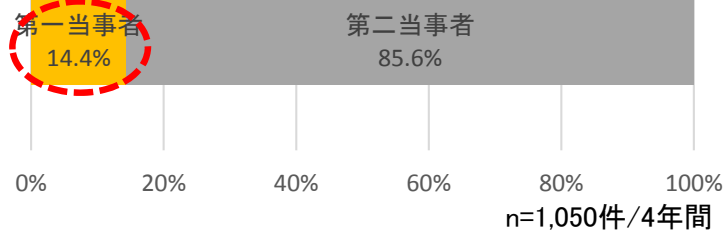
法令違反の種類	件数
安全運転義務違反	72
信号無視	21
その他	12
合計	105

安全不確認など、安全運転義務違反が多いほか、信号無視も目立つ。
※安全運転義務違反は、自転車走行中の携帯電話の操作による過失などが含まれる。



▼自転車の第一・第二当事者の割合 (H24~H27)

14%の人が加害者になっている



※1当、2当ともに自転車の場合、重複して件数に含む

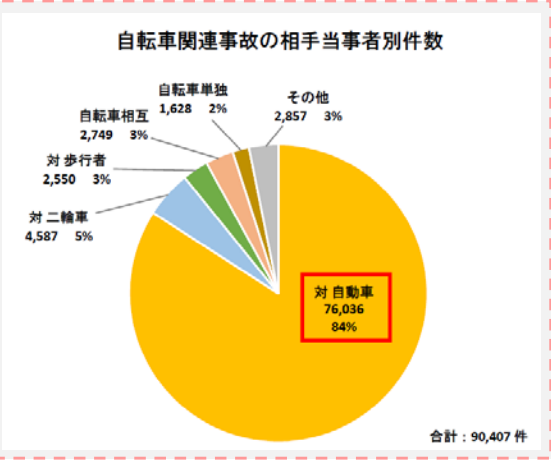
データ：公益財団法人 交通事故分析センター 交通事故統計 (H24~H27)

topix : 全国の状況

自転車関連事故 (自転車第一・第二当事者) の相手当事者別件数 (平成29年)

自転車関連事故の相手当事者は約84%が自動車である。

データ：警察庁交通局 (平成30年2月) 平成29年における交通事故の特徴について





委員意見

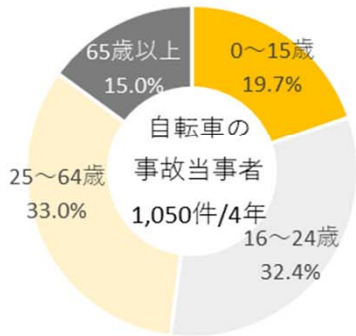
- ・ 自転車事故の当事者年齢の調査

- 自転車事故における自転車利用者の年齢層は通勤・通学など自転車利用が多いと考えられる年齢層に多い。
- 自転車が加害者の事故では、24歳以下が6割近くを占める。
- 自転車が被害者の事故の中でも、死亡事故・重傷事故に限ると高齢者の割合が高まる。
→ 自転車利用が多いと考えられる年齢層を中心に適切な安全教育が必要と考えられる

※国道及び県道のみ対象（市町村道等はデータベースに該当なし）

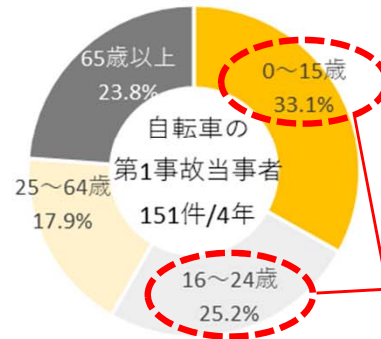
⑤年齢別事故発生割合（山梨県）

▼自転車事故の自転車利用者の年齢層 (H24～H27)



※1当、2当ともに自転車の場合、重複して件数に含む

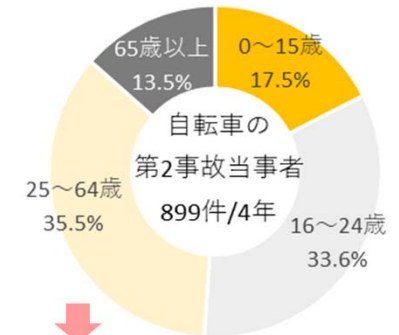
▼第一当事者が自転車の事故（自転車が加害者）の第一当事者の年齢層 (H24～H27)



24歳以下が6割近くを占める

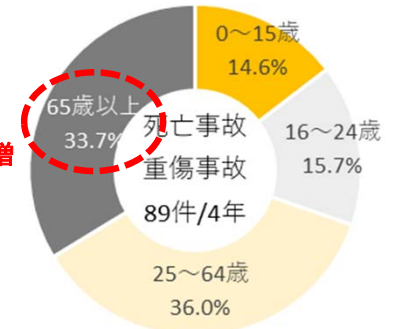
▼第二当事者が自転車の事故（自転車が被害者）の第二当事者の年齢層 (H24～H27)

軽傷事故を含む全自転車事故



死亡事故・重傷事故

死亡事故・重傷事故に限定すると65歳以上の割合が倍増





委員意見

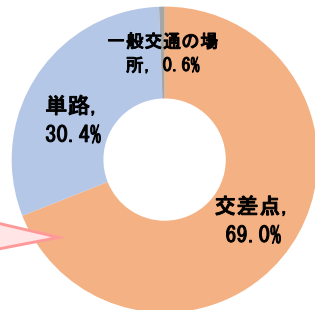
- ・ 自転車事故状況、原因・理由等の調査

- 自転車事故の約7割は交差点で発生している。
- 自転車事故の発生する道路部位は、中央帯・路肩以外の車道が半数以上で最も多い。
- 法令違反の内容は安全運転義務違反が8割を超える。特に安全不確認（前方、左右）は第一当事者が自転車の場合も、自動車の場合でも多い。
→道路利用者に対する安全啓発等が必要と考えられる

⑥自転車事故発生位置（山梨県）

▼自転車事故における道路形状別の発生状況（H24～H27）

交差点での事故が全体の約7割を占める。小規模の交差点での発生が目立つ。そのほかに、件数では、単路部（その他）での事故も多い



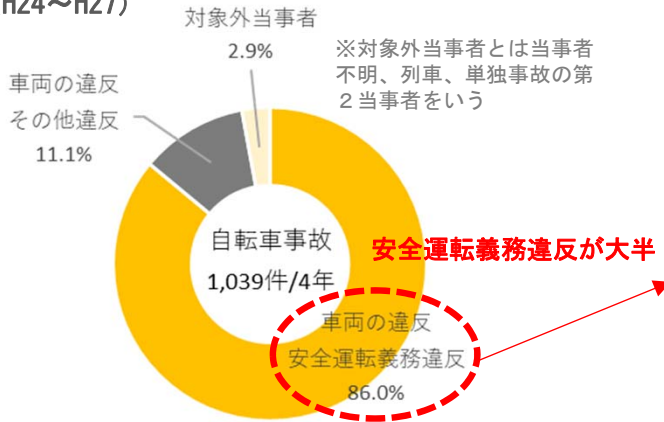
道路形状		件数	
交差点	大	28	717
	中	203	
	小	388	
	交差点付近	98	
単路	トンネル	7	316
	橋	1	
	その他	308	
一般交通の場所		6	6
総計		815	1,039

※単路「その他」は一般的な単路部を示す

⑦法令違反の内容（山梨県）

※国道及び県道のみ対象（市町村道等はデータベースに該当なし）

▼自転車事故の第一当事者の法令違反内容（H24～H27）



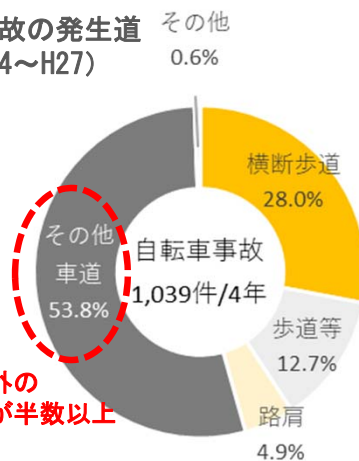
安全運転義務違反の内訳（件）

安全不確認 前方、左右	691
動静不注視	71
安全不確認 後方	45
前方不注意 外在的	43
前方不注意 内在的	24
ブレーキ操作不適	7
その他	7
ハンドル操作不適	3
予測不適	2
安全速度	1

安全不確認（前方、左右）は自転車にも自動車にも多い

⑧道路構造別事故発生割合（山梨県）

▼自転車事故の発生道路部位（H24～H27）



中央帯・路肩以外の車道部での事故が半数以上

安全運転義務違反以外で多い違反（件）

信号無視	40
横断自転車妨害等	20
指定場所一時不停止等	13
対象外当事者	30



- 自転車道が整備されている路線では、いずれも供用時点から8割以上が自転車道を通行している。
→自転車道が整備されている箇所では自転車・歩行者の分離が適切に図られている

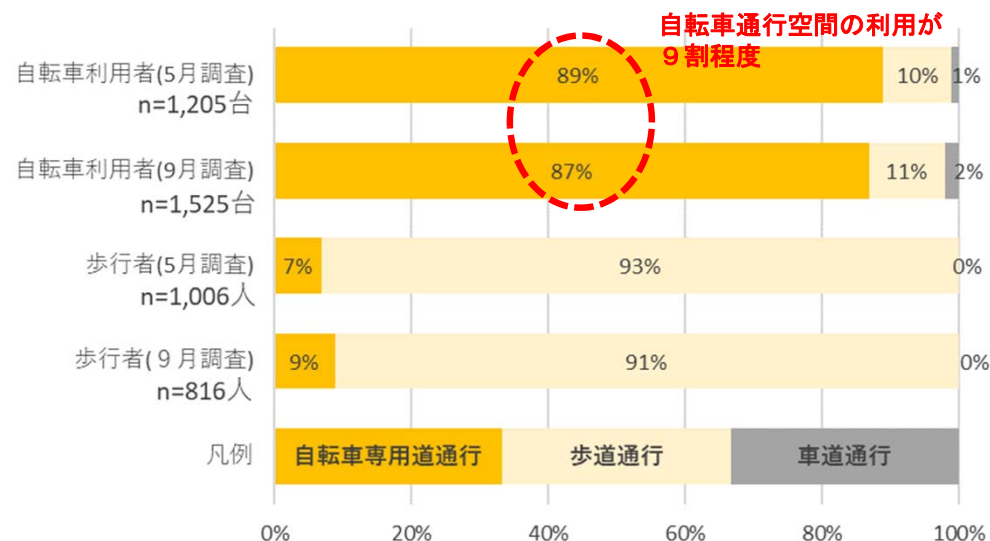
甲府市丸の内周辺地区の利用状況 (H22)

《設置箇所》

平和通り (国道52号・主要地方道甲府韮崎線)



▼自転車利用者・歩行者の通行状況



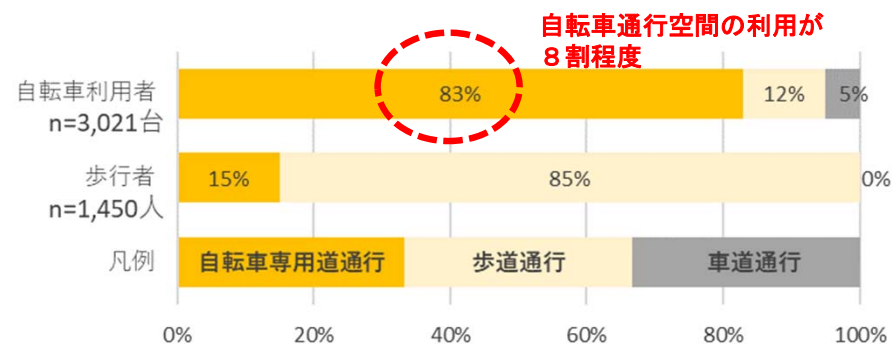
甲府市朝日周辺地区の利用状況 (H22)

《設置箇所》

市道朝日荒川線



▼自転車利用者・歩行者の通行状況



データ：国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所、山梨県県土整備部、甲府市都市建設部 自転車道利用環境整備モデル地区の整備状況